



「ちよだいちば」を訪れ、試食する石川雅己千代田区長

都心の強みを生かした食と農の連携

区民に本物の味と体験を還元する

千代田区をはじめとした都市部は、人材はもとより食材やエネルギーなど、経済活動から生活全般にわたって地方に支えられて成り立っています。地域の魅力をアピールする「場」を求める地方に対しては、千代田区の集客力や情報発信力を生かし、任意団体「ちよだフードバレーネットワーク」を通じて継続した支援を行っています。

食と農を結ぶ「場」を提供する

千代田区神田錦町のオフィス街に、食と農を結ぶアンテナショップ「ちよだいちば」があります。午前11時半、お店が開くと同時に常連客がご当地食材を使ったお弁当を買いに訪れていました。

店内には、全国のこだわりの特産品や名産品が並び、「今しか味わえない地方の美味しいもの」を見つけることができます。地元の住民のみならず、オフィスで働く人たちにも好評です。

客層は、食と地域に関心が高い近隣のOLが多く、リピーターも多いといえます。

「ちよだいちば」は、「ちよだフードバレーネットワーク」の常設店です。

「ちよだフードバレーネットワーク」は、官民連携によって、生産地である地方と消費地としての都市の交流を目的としており、それぞれが協力し合うことで両地域の振興を図っています。

その成り立ちは、NPO法人農商工連携サポートセンターが2014（平成26）年2月に、公益財団法人まちみらい千代田とプラットフォームサービス(株)との共催で、「ちよだフードバレーネットワーク会議」を開催したことが発端です。静岡県富士宮市や北海道帯広市、岩手県釜石市、さらに、地方自治体の東京出張やイベント開催時の拠点となっている区内施設「市町村サテライトオフィス東京」に登録している自治体に連携を呼び掛け、今では千代田区を含めて47自治体・地域が参加して



2014（平成26）年2月に開催された「ちよだフードバレーネットワーク会議」

います。（2017（平成29）年4月24日現在）
ちよだフードバレーネットワークは、区内ホテルで産地直送の採れたて農作物・海産物等を提供する定期開催マルシェ「ホテ市」のほかにも、多くのマルシェを開催してきました。そのなかでも多くの品ぞろえ

と盛り上がりを見せるのが、有楽町駅前広場で開催される「オータムマルシェ」と「スプリングマルシェ」です。どちらも15以上の地域が出店します。「オータムマルシェ」は2016（平成28）年11月に2回目、「スプリングマルシェ」は会場を変えながら2017（平成29）年3月に3回目の開催を迎えました。
今年の「スプリングマルシェ」では、千代田区職員の被災地派遣先である岩手県大槌町^{おおつちちょう}単独出店の「大槌復興支援マルシェ」も同時開催しました。このように農商工連携を通じた都市と地方の交流や被災地支援を進めています。

いちご体験バスツアーが大好評

地方との連携を一層強めるためには、地方の特産品を区内で消費するだけではなく、地方でしか経験できない援農や里山体験を通じて、住民同士の交流を活性化させる必要があります。

今年3月、ちよだフードバレーネットワークの主催で、「守谷いちご体験ツアー」が開催されました。千代田区民がフードバレーネット

孺恋村・五城目町と姉妹提携



五城目町との姉妹提携調印式

千代田区は1988（昭和63）年10月に群馬県孺恋村^{つまごいむら}、1989（平成元年）10月に秋田県五城目町^{ごしろめまち}と姉妹提携を結んでいます。それぞれの住民が参加する運動会や合同防災訓練、子供交流会などの住民交流を始め、災害時には防災協定に基づく支援を行うなど、様々な場面で協力しています。2011年3月11日の東日本大震災では、原発事故により東京の水道水に不安が生じたことから、区に対して飲料水の提供がされたこともあります。

ワーク加盟の地域で農業体験することで、千代田区と地域との連携を深めるのが狙いです。
茨城県守谷市^{もりやし}は、ちよだフードバレーネットワークに加盟していて、

ツアーには「もりや循環型食農健協議会」が協力しました。
参加したのは、チラシなどを見て応募した千代田区民38人。この中には小学生以下の子供9人も含まれ

ています。往復はバス。守谷市のいちご農家でいちご収穫体験を楽しみ、牧場も経営する肉の卸・小売店では、小学生が子牛を見てびっくりしていました。お昼は、そばの栽培から手掛けるそば屋で美味しいそばをいただきました。守谷市はそば栽培農家が多いのですが、そば屋自らが育てているのは、ここだけだそうです。

さらに、イタリア風青空市場「さくら坂メルカート」で買い物を楽しみました。毎月第2日曜日に守谷のイタリアレストランの中庭を使って開催されるマルシェで、守谷の農家、パン屋、酒蔵など10〜12店が出店しています。

参加した区民からは、想像したよりも2倍も3倍も良かった、ぜひ次回も参加したいとの意見も寄せられました（好評でした）。

地方との連携の担い手を増やす

千代田区は、人も物も集まる日本の中心。区が「場」を提供することで、千代田区の集客力と情報発信力を生かした取り組みが可能です。同

時に、地方の旬の特産品が集まる「場」や、交流自治体での体験ツアーなどで、区民もその地方にしかない生産品に出会うこともできます。

石川雅己千代田区長は「大都市で暮らす私たちの生活は、地方の人々や資源によって支えられていることをしっかりと認識する必要があります。地方と大都市の相互共生の理念に立って、様々な分野において連携・協働の取り組みを進めていきたいと考えています」と話します。

ちよだフードバレーネットワークでは引き続きバスツアーを実施するとともに、都会と地方を結び、双方を活性化させる人材の育成・輩出を目的とした「食・農起業塾」の開講を検討しています。このような取り組みから、今後はこうした食と農の連携の担い手が育っていくことが期待されます。

千代田区は、従来から農商工連携を始め環境や教育、文化、スポーツといった分野で地方との連携を図ってきました。この流れをさらに強化し、千代田区の都心の強みを生かした地方との連携のさらなる飛躍に結び付けていきたいと考えています。

地方との連携でCO₂削減



孺恋村での植樹ツアー

千代田区は2012(平成24)年度から、地球環境を守り、低炭素社会の実現を図るため、地方と連携・協力して森林整備事業を行っています。

これは、大量のCO₂を排出する都市と、森林整備によってCO₂の吸収が見込める地方都市が共同で事業を行うことで「低炭素社会の実現」を図ろうとするものです。2012(平成24)年6月に岐阜県高山市と、2016(平成28)年12月に群馬県孺恋村と協定を締結し、毎年着実に整備を進めています。

さらに、千代田区民が孺恋村を訪れ、地元の方々と交流しながら広葉樹の苗木を植樹する「植樹ツアー」を2012(平成24)年度から毎年開催しています。都会では味わうことのできない貴重な体験学習として、子どもたちにも好評です。